

小麦新品種「アイラコムギ」

誌名	農業技術
ISSN	03888479
著者	小田, 俊介 黒田, 晃 宮川, 三郎
巻/号	44巻4号
掲載ページ	p. 171-171
発行年月	1989年4月

研究 通 報

小麦新品種「アイラコムギ」

小田俊介 黒田 晃 宮川三郎 瀬古秀文

育 成 後 期

登録番号：小麦農林132号(旧系統名：関東98号，昭和53年命名) 交配組合せ：東海75号(コブシコムギ)×関東66号(昭和44年春交配)

特 性 の 概 要

葉色はやや濃く，稈長はやや短で農林61号より短く，オマセコムギ並，穂長は短い，穂数はやや多い。千粒重はやや大でオマセコムギより大きい。原麦粒の見かけの品質は農林61号並でオマセコムギに優る。播性程度はⅢ～Ⅳで，出穂期，成熟期ともに農林61号より1日程度早い中生種で，耐倒伏性は中である。赤さび病，うどんこ病には抵抗性ではないが，現地で発病が少ないため実用的には問題ない。穂発芽性は難～やや難で農林61号にやや劣るが，オマセコムギに優る。収量性は多収である。製粉歩留は農林61号と同等である。粉色，プラベンドー特性は総じて農林61号に類似しているが，わずかに薄力的である。めん食感がわずかに劣るが，色相に優れるところから，現地の実需者からも利用可能との評価を受けている。

適 応 地 域 と 栽 培 上 の 注 意

南九州地方の平坦(水田裏作)地帯に適する。

栽培上の注意は次のようである。(1)うどんこ病には弱いので，発生の恐れのある場合は防除に努める。(2)枯熟れの常発地帯での栽培は避ける。(3)耐倒伏性は農林61号より優れているが，十分とはいえないので，多肥にすぎないように留意する。

奨励品種採用県：鹿児島県

命名の由来：鹿児島県の麦の主産地，始良郡に因む。

アイラコムギは農業研究センター発足後，最初の小麦新品種である。昭和43年度農事試験場(鴻巣)で交配を行い，昭和53年度より関東98号と命名し，配付を続けてきた。配付決定理由として，まず株がよく閉じ，止葉が直立しており，草姿がよいということがあった。さらに関東で育成した系統の中では特徴的に播性程度がⅢ～Ⅳと高く，凍上抵抗性が強かった。

採用県である鹿児島県の麦作付面積は4,855ha(昭和62年産)で，うち949haが小麦である。このうちオマセコムギ(541ha)とミナミノコムギ(209ha)で全体の72%を占めている。近年の高品質小麦生産の強い要請のなかで，オマセコムギの品質については原麦の色が黒い等が品種特性として指摘され，早急な改善が必要であった。また，ダンチコムギ，ハヤトコムギは熟期が遅いことや耐倒伏性に問題があった。このような状況のなか，受光態勢が良く，登熟性に優れるなど栽培適性が高く，原麦粒品質(外観品質，検査等級)が優れ，原麦粒の色が明るいアイラコムギが，今回，オマセコムギ，ダンチコムギ，ハヤトコムギに替えて採用されることとなった。

なお，アイラコムギは播性がやや高く，凍上抵抗性も優れているところから，南東北，東山地域で有望と考えられたが，冬期の生育期間が温暖に経過する鹿児島県では茎立が早きにすぎず，生産量が確保できて収量が安定することもあって有望視され，今回の採用となった。

育成従事者：桑原達雄，福永公平，松本武夫，牧田道夫，前田浩敬，小田俊介，星野次汪，瀬古秀文，吉田久，宮川三郎，黒田晃

(農業研究センター作物第二部小麦育種研究室)

「アイラコムギ」の 試 験 成 績

	栽培地	播 性 程 度	出穂期 月・日	成熟期 月・日	稈 長 cm	穂 長 cm	穂 数 本/m ²	収 量 kg/a	標準比 (%)	千粒量 g	原麦粒 品質	製粉歩留 %	粉の明る さ %
アイラコムギ 農 林 61 号	育成地	Ⅲ～Ⅳ	4.25	6.12	82	8.3	445	46.1	108	34.5	中上～中中	66.1	65.9
		Ⅱ	4.26	6.13	89	9.3	415	42.5	100	33.1	中中	64.7	65.9
アイラコムギ オマセコムギ	鹿児島 県農試	—	4.2	5.21	86	7.9	447	43.2	118	37.3	上下～中上	68.3	79.5
		—	3.30	5.18	85	8.0	413	37.2	100	34.7	中上～中中	66.1	78.5

注) 調査年度 育成地 昭和50～62年度(品質は昭和53～61年度)，鹿児島 昭和56～62年度(品質は昭和61年度実需者による成績)

S. ODA, A. KURODA, S. MIYAGAWA and H. SERO: A New Wheat Cultivar "Airakomugi". 農業技術 44 (4), 1989.